

人を掌握する力

—学会運営をご一緒させていただいて—

○ 林 篤裕

名古屋工業大学 大学院工学研究科

1 はじめに

早いもので2002年8月に林知己夫先生がお亡くなりになられてから既に15年が過ぎた。ご存命なら百寿を迎えられるとのこと。あの偉大な先生とお話しすることができなくなったのは返すがえすも残念で寂しく思う。この期を捉えて、彼の業績とその後の展開についてのセッションが計画されたことは誠に喜ばしいことであり、加えて私のような者にまで発言の機会を与えていただいたことに恐縮する。数え切れないほどの偉大な研究と諸展開については他の先生方がご紹介になるであろうから、本セッションの趣旨からやや逸脱することをお許しいただいて、私からは別の視点として学会運営のマネジメントの側面から振り返ってみることにする。

2 遠い存在の頃

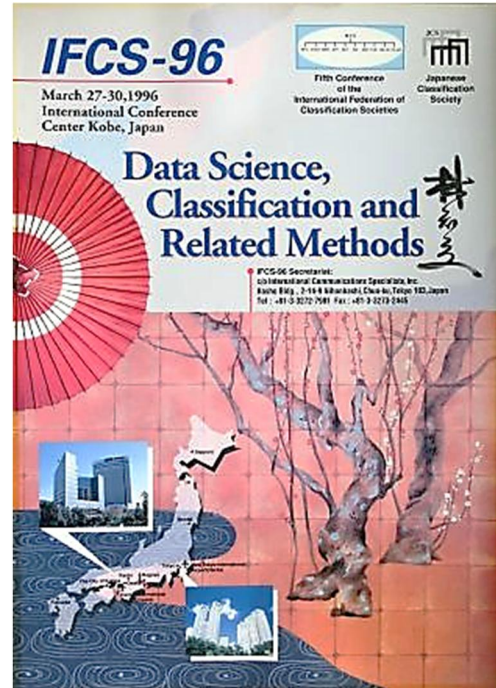
先生を初めてお見かけしたのは81年に岡山大学で開催された科研集会の受付であった。数量化理論を確立された研究者として「へえ、これがあの先生なのか」と感動を持って眺めていたことが懐かしい。その後、85年にも同じく岡山大学で開催された日本統計学会の大会会場でタクシーから颯爽と降りて来られて教室に向かわれるお姿を今でも鮮明に覚えている。

この当時の計算と言えば大型計算機で実行されるのが一般的であり、計算機言語(高級言語と呼ばれていた)はFORTRANが主流であった。しかし、79年に発売が開始されたパーソナルコンピュータはBASIC言語をメインにしており、この上で動作する統計プログラムも皆無であったことから数量化理論等のBASICプログラムを開発・発売させていただいた。データに線形計算を施すだけで個体や変量が見事に分解・分類される様を見てその理論に大変興味を持った。

3 学会運営

どのような経緯があったのか正確に知る由もないものの、大隅昇先生あたりがご推薦くださったのではないかと想像しているが、IFCS (International Federation of Classification Societies、国際分類学会連合)の日本大会の準備委員会のメンバーとなった(先生は実行委員長。私の主務はインターネット環境の整備(4 参照のこと))。93年8月にパリで開催されたIFCS-93のCouncil Meetingで日本大会(IFCS-96)は96年3月に開催することが決定され

た。IFCS 大会の開催には「Bock のガイドライン」と称する大会開催準備の手順書があり、時期に応じた綿密な予定が立てられていて、これに基づくと開催の3年前から準備を開始することになっていた。実際、IFCS-96 についても第1回の準備委員会が93年9月に開催され、この中で開催地も神戸と決定した。この委員会はほぼ2ヶ月に1度、合計で20回開催されたが、実質的な運営を検討・推進する会合で世帯もこぢんまりとしていたこともあって、身近に接することが出来る良い機会となった。準備を進めていた95年1月には阪神・淡路大震災が発生し開催が危ぶまれ、開催地の変更等も検討されたが、現場がどのような状況なのかを参加者に実際に観てもらうことが重要であるとの先生のお考えもあって、予定通り神戸で開催することとなった。委員長のリーダーシップの下、多くの方々のご協力で成功裏に終えられたことはご存知の通りである(右側の写真は先生のサイン入り大会ポスター)。



また、IFCS-96 を無事に終え、安堵していた96年末の押し迫った日に IFCS の Treasurer (会計)を引き受けるようにとの依頼をいただいた(5 参照のこと)。翌年から4年間、IFCS の副会長・会長に就任される時期に合わせての要請であったが、「Treasurer は Secretary より楽だと思う」とのお言葉で受諾せざるを得なかった。会計の任務は、傘下の13学会・グループ(当時)に会費を請求・徴収し、予算案を立てると共に各事業に支出をして Council Meeting で会計報告をする役目である。海外送金や会計管理を前任者の Meulman 氏の資料を参考に作成し IFCS-98(Rome, Italy)と IFCS-2000(Namur, Belgium)の2回にわたって Council Meeting で報告した。国際学会の幹事会がどのようなものを身を持って体験することができ、また、日本的根回しもなく次々と重い議事が提案される様を目の当たりにすると共に、それらを的確にさばっていく会長の臨機応変さにはただただ呆気にとられていた。

4 人を掌握する力

前項で述べたように国際大会の開催や学会運営のやり取りを約8年の間、先生の近くで拝見することができた経験を通して、「人を掌握する力」を有した研究者の有るべき姿を垣間見た気がした。

具体的には、直面している課題に対しての判断が素早い。しかしそれは単なる思い付きでは全くなく、今までの経緯を踏まえて全体の流れを掌握し、その時点で最高の効果が得られると判断した方向に綿密に舵を切っているように思われた。また何故そのような決定に至ったかも併せて説明してくださるので、担当者として根底に流れている考え方も理解することが出来、その後に同種の問題に遭遇した場合も判断の予想がし易くなる。

この能力がご自身の経験に基づくものなのか、はたまた元から備わっていた能力なのかは私には判らなかつたが、安心して付いて行ける隊長というものはこういうものなのだろうと思った。また、委員会構成者の一人ひとりに至るまでのそれぞれの性格を詳細に把握されていると感じることが幾度もあり、その観察力には一種の恐怖心を感じたぐらいだ。私自身がどの様に観られているのだろうか。

信念に基づいた俯瞰的な方向性をつかむ力、細部は担当者に任せる度量、そして状況を理解して決断する力。言葉ではなかなか表現し難いがこれらの能力を融合させて「人を掌握する力」として機能していたように思う。

5 むすびに代えて

担当させていただいた2つの委員は、何れもお引き受けする時点で自分には荷が重いと感じていたが、終わってみれば先生の横でその一挙手一投足をつぶさに観察できるまたとないチャンスを与えて下さったと大いに感謝している。

また、今回メインには取り上げなかったが、私が東京に勤務するようになってからお亡くなりになる4ヶ月前まで、ひと月から3ヶ月に1度程度の割合で「林塾」と称した勉強会も開いていただいた。この勉強会は各メンバーがその時点で取り扱っている話題を紹介しあうもので、内容は多岐にわたっていた。当時、大学入試センターに所属していたこともあって、私からは入試や教育問題、およびそれらの分析方法等を取り上げることが多かったが、毎回本質を突く鋭い質問と的確なご助言をいただけた。そしてご自身も教育問題とその将来像に非常に強い関心・危惧を持たれていたように感じた。

他にも文化的側面として、ご自宅の池を配した庭には近所でも有名な見事な桜の木があり、その脇に建てられた茶室では来客があると茶道のお点前を披露されていた。また、国際学会で海外を訪ねられた際には、お忙しい中にも時間を見つけられて会場近隣にも足を伸ばされその国の歴史・文化・食事等の見聞を深められていたようであった。

近年はセンサー技術の発達とも相まってビッグデータやAIに注目が集まり、また、初等中等教育では統計的な考え方の習得がカリキュラムに取り入れられるようになって統計学に関心を持たれることが多くなった。しかし、先生がデータに接する際の姿勢を思い返すと、データの生成されている現場に立ち、その現象を丁寧に調査・観察して課題を的確に把握し対応されていたように思う。学会運営においてもこの考えに通じるような行動を体現されていたのではないか。薫陶を受けた者の一人として先生から感じ取った数々の事項を頭の片隅に置きつつ、心にも文化的余裕を持って自分の興味・関心のテーマ(高大接続問題等)に今後ともアタックし続けて行きたいと考えている。知己夫先生、どうもありがとうございました。

参考文献

1) Hans-Hermann Bock(2006?), A history of the International Federation of Classification Societies, http://ifcs.boku.ac.at/site/lib/exe/fetch.php?media=pdfs:ifcs_history.pdf.

- 2) 田中豊他(1984), パソコン統計解析ハンドブック II 多変量解析編, 共立出版。
- 3) 垂水共之他(1988), パソコン統計解析ソフトウェア Seto/B, 共立出版。
- 4) 林 篤裕(1996), インターネット接続体験記, 日本分類学会会報 第19・20合併号, PP8-10。
- 5) 林 篤裕(2002), 国際分類学会連合の会計担当を終えて, 日本分類学会会報 第25号, PP1-2。
- 6) 脇本和昌他(1984), パソコン統計解析ハンドブック I 基礎統計編, 共立出版。
- 7) 渡辺秀章(1996), IFCS-96に参加して, 計算機統計学 第9巻第1号, PP86-88。
- 8) IFCS 関連だより(1994), 日本分類学会会報 第16・17合併号, PP17-18。
- 9) IFCS 関連だより(1995), 日本分類学会会報 第18号, PP12-14。
- 10) IFCS-96 大会関連報告(1997), 日本分類学会会報 第19・20合併号, PP15-17。

(連絡先: hayashi.atsuhiro@nitech.ac.jp)